

明るく広がる芝生の中庭が完成



リニューアル後初の学園祭も 新しい中庭で開催

キャンパス リニューアル 第3回 レポート

全3回にわたる環境整備事業特集の最後を締めくくる今回は、中庭のリニューアルが完成したキャンパスについて、リニューアル後初となる学園祭の実行委員長や一般の学生に、インタビューを行った。(撮影：添田一真 取材・文：三好有香)

2018年2月から中庭を中心に行われていたキャンパスリニューアル工事が8月末で終了した。正門の歩車分離については2019年2月から始まる工事で行われる予定だ。



小林麦人さん

11月2日と3日にはリニューアル後初となる学園祭が行われた。社会学部人間心理学科3年生で学園祭実行委員長の小林麦人さんは、養生中の芝生のため変更や工夫しなければならなかったとたくさんあったと語る。

学園祭実行委員会には4つの局があるが、キャンパスリニューアルの影響を最も受けたのが総務局。総務局は出店する団体や遊具、ステージなどの取りまとめ役である。

屋外ステージや大型ふわふわ遊具は大きさが重さかなりあるので芝生のないサングラウンドに配置。屋台では使用するテーブルやイスなど脚の細いものをそのまま芝生に置いてしまうところには大きな負荷がかかり、芝生を傷めてしまったため、

できる限り舗道に置くようにした。

発電機など重い機材もまた舗道に設置し、油污れが強くなるものはプラスチック製ダンボールの板を敷いたりするなど各団体への協力を呼び掛けた。

例年からの変更が多く、大変なこともあったが、新しくなった環境で学園祭ができた。「この時期に委員長になれて良かった」と小林さんは笑顔で語った。

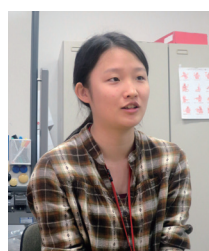


関心珠さん

学園祭の実行委員でもある社会学部人間心理学科2年生の関心珠さんが何より注目したのは、自然の豊かさだ。多くの草花や樹木が植えられ、中央には緑豊かな芝生が広がる。「自然が溢れていて、誰でもおたやかな気持ちになる」というのがキャンパス全体の印象だ。いっぱい目立たないけれど、素敵な場所がたくさんあるともいう。

人間心理学科の心理学実験室があるC棟を日ごろから利用しているため、関さんはC棟裏に

植えられた草花に心惹かれている。疲れが溜まっている時に小さな芽吹きを見つけると、自分も頑張ろう、と勇気がもらえるという。図書館に行く時や東門から入ってくる時などにぜひ見てほしいと話す。



五嶋桃香さん

社会学部人間心理学科4年の五嶋桃香さんは、工事中の安全面についての印象を話してくれた。工事中、仮設通路を通らなければならなかったことが多々あり、戸惑いを感じたという。しかし、警備担当者が工事車両から学生を安全に守ってくれたりと、学生が転ばないように助けてくれたりしたので、身近で工事が行われていることを実感し、しっかりやっているんだなあと感心していた。

また、リニューアル後は、ゴミ箱の数が以前よりも少なくなってしまったので、きれいなキャンパスを保つために学生ができることとして、「ポイ捨てをせず、散らからないようにしていきたい」と言う。